

1 目的

県民、NPO等が中心になって、指導者の指導のもと「三番瀬自然環境モニタリングマニュアル」を活用しながら、三番瀬の自然環境についての調査（試料の採取、同定、結果の取りまとめ、考察、報告書の作成など）を行うことにより、参加者の三番瀬に対する理解を深めるとともに、モニタリングについての知識、技術等を習得していただき、そこから広く市民・NPOにモニタリングへの参加の幅を広げていくことを目的としています。

2 現地調査

(1) 現地地点

浦安市日の出地先の海域で、北緯 $35^{\circ}38'26.8''$ 東経 $139^{\circ}56'20.3''$ 付近を基準点とする10地点で調査を実施しました。(図1、図2) このエリアは、大潮時に広く干出する場所です。

(2) 調査日

春季調査【6月7日(日)】と夏季調査【9月5日(土)】に実施しました。

(3) 調査方法

調査は、指導者の指導のもと、県・市民などが協同して行いました。

まず、調査地点の緯度・経度、天候、水温、酸化還元電位、底質などについて測定等を行ったうえで、各地点とも「たて20cm×よこ20cm×深さ20cm」の採泥を行い、ふるいに残った生物を採取し、同日にソーティング、同定を行いました。

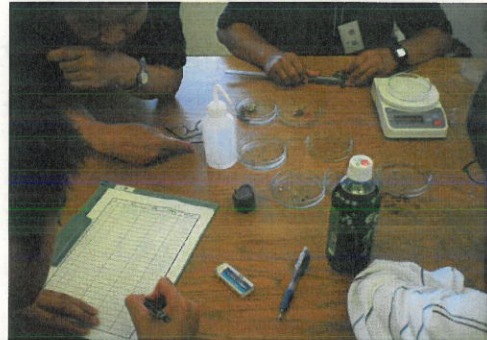


(現地調査風景)

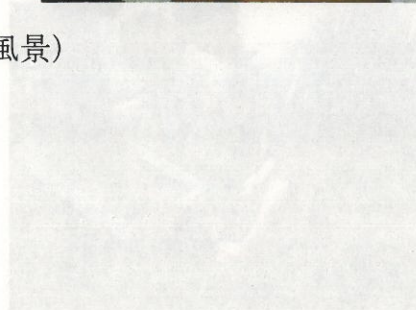
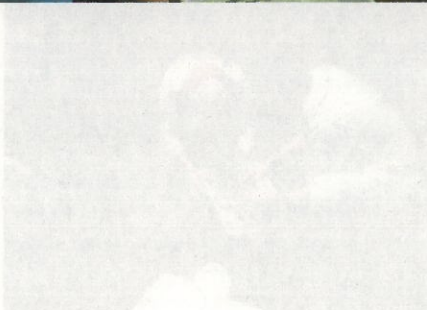
ソーティング・同定については、浦安市郷土博物館の島村氏、千葉県立保健医療大学の榎本氏、東邦大学の多留氏、千葉工業大学の村上氏、千葉県環境研究センターの小倉氏、千葉県生物多様性センターの熊谷氏、柳氏の指導・助言のもと参加者が行いました。



(ソーティング風景)



(同定風景)



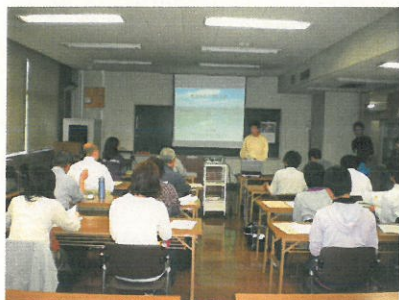
(景観写真)

3 勉強会等

参加者が調査方法や三番瀬の生き物について学ぶとともに、調査結果の考察などを行うため、事前勉強会、考察会、報告会（勉強会）を開催しました。

(1) 事前勉強会（平成21年5月30日（土）環境研究センター会議室）

事前勉強会では、「現地調査方法の説明」、「ソーティング・同定体験」などを実施しました。また、講演として、東邦大学理学部東京湾生態系研究センターの多留氏の講師のもと「東京湾の干潟生物」について学びました。



(2) 考察会（平成21年10月25日（日）環境研究センター会議室）

考察会では、6月7日（日）と9月5日（土）に実施した現地調査の結果について、各班に分かれて指導者から指導を受けながら考察を行いました。



(3) 報告会（勉強会）（平成21年12月6日（日）環境研究センター会議室）

報告会（勉強会）では、各班の考察結果について発表を行いました。



4 調査結果

酸化還元電位等調査地点の状況は8ページと9ページの表2-1、表2-2のとおりです。

採取した底生生物の個体数、湿重量は10ページと11ページの表3-1、表3-2のとおりです。

また、二枚貝（アサリ、シオフキ、マテガイ）の殻長と個体数は、12ページから19ページの図3から図5のとおりです。

